

利神城跡保存活用計画策定委員会 全体会議議事録 【概要版】

(平成30年度 第2回)

日 時	平成30(2018)年6月9日(土) 13:30~15:50
場 所	佐用町役場 会議室301
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：平成30年2月27日～平成32年3月31日</p> <p>藪 田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長 【委員長】</p> <p>北 垣 聰 一 郎 石川県金沢城調査研究所 名誉所長 【副委員長】</p> <p>西 形 達 明 協同組合関西地盤環境研究センター 顧問</p> <p>福 井 亘 京都府立大学大学院 准教授</p> <p>水 島 あ か ね 国立明石工業高等専門学校 准教授</p> <p><地元委員></p> <p>森 本 實 文化財保護審議委員会 会長 【副委員長】</p> <p>永 井 薫 教育委員会 教育委員</p> <p>福 井 泉 長谷地域づくり協議会 企画委員長</p> <p>五 名 和 雄 平福地域づくり協議会 会長</p> <p>井 口 覚 佐用町商工会 会長</p> <p>北 村 広 樹 佐用町観光協会 会長</p> <p>高 木 照 雄 平福文化と観光の会 会長</p> <p>中 島 基 生 大字平福管理委員会 委員長</p> <p>松 本 洋 子 公募委員</p> <p>矢 代 成 生 郷土を考える会</p> <p><助言・指導></p> <p>山 下 信 一 郎 文化庁記念物課文化財調査官 (欠席)</p> <p>小 川 弦 太 兵庫県教育委員会文化財課主査 (欠席)</p> <p>山 上 雅 弘 兵庫県立考古博物館学芸課担当課長補佐</p> <p><事務局></p> <p>平 田 秀 三 佐用町教育委員会 教育長</p> <p>谷 口 俊 廣 教育課 課長</p> <p>宇 多 雅 弘 教育課企画総務室 室長</p> <p>藤 木 透 教育課企画総務室文化財係 副室長</p> <p>中 村 剛 彰 教育課企画総務室文化財係 室長補佐</p> <p>重 崎 勇 人 企画防災課まちづくり企画室 室長</p> <p>江 見 秀 樹 企画防災課まちづくり企画室 室長補佐</p>

	<p>戸屋 雅裕 商工観光課商工振興室 室長 (欠席) 眞岡 明 信 商工観光課商工振興室 係長</p> <p><コンサルタント></p> <p>奥村 信一 (株)都市景観設計 代表 中野 浩幸 (株)都市景観設計 取締役 広田 編子 (株)都市景観設計</p>
議事等	<p>1. 利神城跡等に関する情勢報告 2. 議事次第 3. 現状と課題 住民委員 4. 専門委員の意見</p>

— 議事内容 —

1. 利神城跡等に関する情勢報告

- ①1/1000 平面図に着手
- ②石垣カルテ作成 2年計画
- ③平福地区 木村邸の保存活用
- ③三日月藩乃井野陣屋表門竣工
- ④播磨科学公園都市圏域定住自立圏事業 巡回展「つわものどもの夢のあと」
郷土の中世山城の展示と講演会開催

2. 議事次第

- (1)前回の要旨確認
- (2) 現状と課題の確認(ア. 山城地区、イ. 御殿屋敷地区、ウ. 平福のまちなみ)
- (3) 本質的価値の確認と共有(追加すべき価値の検討)

3. 現状と課題 住民委員の意見

- (1)任意団体のあゆみ 現状と課題
- ①「大字平福管理委員会」年2回の草刈、参加者の高齢化が課題
- ②「平福文化と観光の会」兵庫県商工会予算で立ち上げ、発足40年。利神城跡の国史跡指定に向けて地元団体として活動を継続。入山規制がかかるまでは、見回りをを行い、史跡の変状を町に報告する役割を担ってきた。
- ③「郷土を考える会」発足当初は参加人数が多かったが、人口減の現在、地域全体の人が関わる限界も認識している。20～30代が郷土愛を育んでくれることを願っている。
- ④平福地域づくり協議会による開催行事

ア. 写真コンテスト

イ. まちなみライトアップ

ウ. 瓜生原邸での佐用高校のファッションショー、オリジナルランチ発表会

⑤任意団体の正式名称 訂正

ア. 「いこい処ほっと」 喫茶等のサービスを提供。

イ. 「ギャラリー アンド ほっと」 イベント会場等に利用。

⑥地域活動の課題

活用が可能な歴史文化遺産や地域資産があっても、地域全体を巻き込むことは実際難しく、関わり方や関心には個人差がある。

(2)地域と利神山との関わり

①平福地区 年輩者

・利神山は遠足や授業で登った。身近な裏山で遊び場であった。

②平福地区 段階ジュニア世代

・週に何日も友人らと登って遊んだ。よく登ったルートは三本松のところから。

③平福地域外の地元住民

・登ったことがなく、遠くから眺めるもの。

・常々登りたいと思っていたが機会がなく、入山禁止に至る。

④登山ルート

ア. 三本松から 登山道と整備されており登りやすい

イ. 往時の登城道 急傾斜でつづら折れ

ウ. 旧長谷小学校からのルート 所要時間約40分、傾斜は緩い。

(3)景観 旧城下町以外から見る利神山

①国道373号線から新田坂を登った所から

②西山から (夫婦岩から)

③徳久の釜須坂から

姫路城主の池田輝政が見た利神城。立派過ぎて破城にしたという伝説の場所。

(4)山城地区の課題

①400年の間変化なく持ちこたえた城郭遺構が、戦後から現代の約40～50年で変状した理由は何か。

②動物による下草の食害、二次被害として土壌流出が見られる。史跡指定地周辺に入念な獣害対策をするべき。

(5)活用について

- ①応急処置中、整備中でも、利神城の歴史、平福地区の歴史等が学べるメニューを考える。
- ②御殿屋敷地区に残る石垣を十分に見学できるようにする。

④地域伝承の継承

ア. お菊伝説

『播州皿屋敷』のモデル。地域観光のメニューに、伝承地ツアーや語り部プロジェクトを企画すると共に、地元にも語り継ぐ。

イ. 利神城を修築した池田氏

池田由之が姫路城の六支城として利神城跡を修築した経緯。鳥取の池田藩が、因幡街道沿いの平福に陣屋を造り、参勤交代で利用したこともあり、宿場町平福が賑わった。

ウ. 宮本武蔵ゆかりの地の伝承。

エ. 神吉邸別邸や田住家等、近世の歴史的スポットや神社・仏閣等。

4. 専門委員の意見

(1)本質的価値の追加

- ①戦国時代の遺構である別所構跡、長谷地区から城郭に続く道・ルート
- ②利神城跡は、新旧二つの時代の遺構が同時に存在する、全国的に貴重な城郭。城郭の古い箇所は、別所構跡と同時期に築かれていると推測。二種の石材で積まれた石垣のうち、利神山の東山石は天正年間に、西山石は、慶長～寛永年間の修築で使われた。

(2)応急的処置

- ①石垣や地盤の崩落危険箇所に、応急的処置を施し、安定性を高める。
- ③応急処置、保存・修復に必要な、資材運搬路の設定。
- ④見学可能な場所を徐々に増やせるよう、修復手順を決める。
- ⑤応急処置、安全確保を経て、保存・整備に取り組み、数年後の公開を目指す。

(3)危険の周知

- ①石垣が危険構造物であることを認識し、リスクマネージメントを徹底する
- ②入山禁止の危険性を理解し、地域全体で周知する。
- ③来訪者にも理解が得られるよう、町・地域を挙げて情報を広める。
- ④地元・一般の史跡公開に対する要望に応えるため、国や県に現状を知らせる。

(4)活用・公開の具体的手法

- ①整備された箇所から見学が可能な活用方法を検討する。
- ②年に何回か、少人数で安全を確保した限定公開を企画する。
- ③地域住民や来訪者に、描く将来像を伝え、保存・活用・整備の進捗や、経過説明ができ

る場を設ける。

④利神城跡の歴史や、平福のまちなみの変遷など、来訪者が城郭以外の諸要素についても学べるようにする。

⑤④に加え、地域伝承を郷土資産として語り継ぎ、来訪者にも観光文化として伝える。

(5) 史実、調査研究の課題

①利神城跡に関する史実の不明確性。まだ解明の余地がある。

②過去の見解との相違点。池田氏の修築が、山城地区中枢に残る古い石垣を追随する形で行われているということ。

③瓦の調査。姫路城や岡山城の瓦と比較対照調査する。更なる研究成果の可能性。